

# 国立公園の利用に関する 動向・ニーズについて

# 日本人Webアンケート（質の指標調査）の結果

調査方法	: インターネットによる調査
調査期間	: 2023年1月12日～1月18日
対象公園	: ステップアッププログラムを策定済みの12公園（阿寒摩周、十和田八幡平、日光、伊勢志摩、大山隠岐、阿蘇くじゅう、霧島錦江湾、慶良間諸島、支笏洞爺、中部山岳、富士箱根伊豆、磐梯朝日）
調査対象者	: <u>2022年1～12月に12公園のいずれかを訪問した18歳以上の日本人</u> （公園内居住者を除く）
回収数	: <u>4,772票</u> : <u>各公園 年間約400票</u> （四半期毎に約100票）

## 留意事項等

- ◆ 国立公園満喫プロジェクトの成果指標については、訪日外国人利用者数及び国内利用者数（延べ宿泊者数）に加え、自然を満喫できる質の高いツーリズムの実現に向けた「質」の指標（一人あたり消費額、リピーター率、認知度、満足度等）も定めることとしている。
- ◆ 「質」の指標のモニタリングのため、2017～2019年まで、訪日外国人及び日本人の国立公園訪問者を対象に対面アンケート調査を実施し、結果を各公園においても活用してきた。コロナ禍においては利用者数が減少したため一時的に中止していたが、利用者数の回復を受けて再開することとした。
- ◆ 2022年は、日本人の国立公園訪問者を対象としたWeb アンケートパネル調査により質の指標の算出を行った。なお、従来の「質」の指標のモニタリングは、サンプルの安定確保およびコスト面の課題があったため、今回、Webアンケートによるデータ回収・分析の可能性を確認した。その結果、一定程度、安定的かつ従来よりも比較的成本を抑えながらデータの回収・分析を行うことが見込めることが確認された。
- ◆ **ただし次頁以降に示す結果は、新たな調査体系の下で算出した値となるため、従前の2019年以前の調査結果とは単純な比較ができないことに留意する必要がある。**
- ◆ 2023年以降については、今年度の成果を踏まえて調査方法等の改善を図り、日本人に加え、訪日外国人も対象とした国立公園訪問者アンケートを新調査体系で実施することを検討する。

# 1-1. 訪問中の満足度

- 国立公園における満足度（訪問全体）で「大変満足」と回答した人は、12公園計25.1%、8公園計では25.5%となった。
- 公園別には阿蘇くじゅうが30.7%と高く、次いで中部山岳29.6%となっている。

満足度「大変満足」の割合

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園計
日本人	2022	21.1	26.1	27.8	22.5	24.9	30.7	24.7	26.4	25.5	25.3	21.3	21.3	29.6	25.1
	2019 (参考)	32.7	33.6	28.9	30.2	20.2	34.8	36.3	64.8	35.2	33.4	-	28.4	53.3	-
	2018 (参考)	46.3	45.4	44.1	46.4	31.5	49.5	51.9	60.3	46.9	38.9	-	34.1	51.1	-
	2017 (参考)	34.9	38.1	35.4	34.1	28.2	38.1	37.5	53.9	37.5	-	-	-	-	-

※2022年データと2019年以前のデータは計測方法が違いため単純な比較はできないことに留意が必要。

## 1-2. 友人・知人への推奨意向

- 国立公園訪問後の友人・知人への推奨意向で「必ず薦めたい」と回答した人は、12公園計18.0%、8公園計では19.0%となった。
- 公園別には慶良間諸島が24.9%と高く、次いで阿蘇くじゅう24.1%となっている。

推奨意向「必ず薦めたい」の割合

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園計	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園計
日本人	2022	19.8	19.0	13.8	15.2	15.9	24.1	19.4	24.9	19.0	16.0	14.7	14.0	19.5	18.0
	2019 (参考)	38.6	37.9	33.7	34.8	31.1	34.5	21.5	64.0	37.0	32.5	-	33.0	48.1	-
	2018 (参考)	41.3	45.5	44.2	42.0	31.9	43.5	39.2	63.3	43.9	29.2	-	32.5	48.1	-
	2017 (参考)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

# 1-3. 訪問中の支出額

- **国立公園訪問時の支出額（公園内※）は、12公園平均で30,295円、8公園平均では31,604円となった。**  
※公園内で支出した金額：例えば、自宅～公園までの移動にかかる交通費等は含まない。
- 公園別には慶良間諸島が50,915円と高く、次いで伊勢志摩34,933円となっている。

公園内での平均支出額（総額）

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園平均
日本人	2022	28,620	31,096	25,593	34,933	28,571	24,603	28,501	50,915	31,604	30,104	24,909	26,838	28,862	30,295
	2019 (参考)	23,068	27,978	23,444	34,554	34,044	16,356	40,201	41,020	30,083	15,918	-	12,972	34,797	-
	2018 (参考)	28,462	36,175	24,322	28,989	30,892	17,105	31,651	40,068	28,708	27,121	-	20,718	41,509	-
	2017 (参考)	34,219	38,330	30,809	30,619	44,782	17,727	36,194	47,542	35,028	-	-	-	-	-

※2022年データと2019年以前のデータは計測方法が違いため単純な比較はできないことに留意が必要。

# 1-4. 平均泊数

- 国立公園における平均泊数は、12公園平均で2.2泊、8公園平均では2.0泊となっている。
- 公園別では日光が3.5泊と高く、次いで支笏洞爺が3.4泊となっている。

公園内での平均泊数

単位：泊

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園平均
日本人	2022	1.4	1.9	3.5	2.3	1.6	1.6	1.9	1.5	2.0	3.4	2.4	2.2	2.6	2.2
	2019 (参考)	1.3	1.1	1.4	1.2	0.7	0.4	1.0	2.0	1.1	1.0	-	1.0	1.4	1.1
	2018 (参考)	1.2	1.7	1.5	1.1	1.5	1.1	1.0	2.3	1.4	1.3	-	0.6	1.8	1.4
	2017 (参考)	1.6	1.1	1.1	0.7	0.7	0.3	0.6	1.9	1.0	-	-	-	-	-

※2022年データと2019年以前のデータは計測方法が違いため単純な比較はできないことに留意が必要。

# 1-5. 国立公園としての認知度

- 国立公園としての認知度※は、12公園平均で66.4%、8公園平均では67.8%となった。
- 公園別には十和田八幡平が75.2%と高く、次いで阿蘇くじゅう71.6%、阿寒摩周71.4%となっている。

※認知度：訪問した地域が国立公園であることを知っていたか否かを質問。本頁に示した値は「知っていた」人の割合。

## 公園内の認知度

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園平均
日本人	2022	71.4	75.2	67.0	57.5	70.5	71.6	65.7	63.1	67.8	67.3	69.1	66.9	51.9	66.4
	2019 (参考)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2018 (参考)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2017 (参考)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

※2022年データと2019年以前のデータは計測方法が違いため単純な比較はできないことに留意が必要。

# 1-6. リピーター比率

- 国立公園におけるリピーター比率は、12公園平均で65.7%、8公園計では67.6%となった。
- 公園別には富士箱根伊豆が81.3%と高く、次いで日光が76.8%となっている。

リピーター率（2回目以上の来訪者）

単位：%

		阿寒摩周	十和田八幡平	日光	伊勢志摩	大山隠岐	阿蘇くじゅう	霧島錦江湾	慶良間諸島	8公園平均	支笏洞爺 (支笏湖周辺)	磐梯朝日国立公園 (磐梯吾妻・猪苗代)	富士箱根伊豆 (富士山周辺)	中部山岳 (公園南部)	12公園平均
日本人	2022	56.5	60.6	76.8	74.6	71.3	74.1	61.5	50.1	65.7	64.9	72.2	81.3	67.4	67.6
	2019 (参考)	58.6	57.0	83.7	57.3	46.4	56.0	41.8	53.2	56.8	65.8	-	77.5	72.0	-
	2018 (参考)	58.6	66.1	83.2	55.9	48.3	68.6	45.7	52.3	59.8	65.0	-	91.4	67.8	-
	2017 (参考)	79.4	80.4	85.8	68.8	59.8	79.7	67.0	50.7	71.4	-	-	-	-	-

※2022年データと2019年以前のデータは計測方法が違いため単純な比較はできないことに留意が必要。



# 外国人Webアンケート（意識調査）の結果

調査方法	: インターネットによる調査	
調査期間	: 2023年1月5日～1月19日	
調査地域	: 12カ国・地域	
	■ アジア : 韓国、香港、台湾、中国、タイ、シンガポール	
	■ 欧米豪 : アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、フランス、ドイツ	
調査対象者	: 20歳以上・男女、かつ、海外旅行経験者	
回収者数	: 上記各地域に居住する住民計6,566人	(注) 国・地域、性別、年代、中国居住地のバランスを考慮して回収

## 留意事項等

- ◆ P2に記載の通り、2023年以降については、今年度の成果を踏まえて調査方法等の改善を図り、日本人に加え、訪日外国人を対象とした国立公園訪問者アンケートを新調査体系で実施することを検討する。
- ◆ このため、2022年は、アジア・欧米豪計12カ国・地域を対象としたWebアンケートパネル調査を実施し、訪日外国人に含まれる国立公園訪問者の出現率を訪問年別に測定した。その結果、34公園・訪問年別に訪問者のデータを回収できたが、訪問者の出現率は公園によって大きな差があり、訪問時期を単年に限定すると、十分なサンプルが確保できないケース等がみられた。今後、安定的に指標のモニタリングを行っていくためには、調査対象者訪問時期の条件設定や他調査との組合せ等を検討する必要がある。
- ◆ なお、2022年における日本の国立公園訪問者の回答数は確保が困難と見込まれたことから、質の指標の把握に代えて、今後の国立公園満喫プロジェクトの推進に資するデータを収集することを目的に、属性、訪日経験、訪日意向、国立公園の認知度、国立公園の訪問意向、国立公園の訪問経験、何に魅力を感じるか（自然、動物、景観等）、情報源等を把握する意識調査を実施した。
- ◆ 次頁以降に掲載するデータは、本意識調査による結果（一部）である。

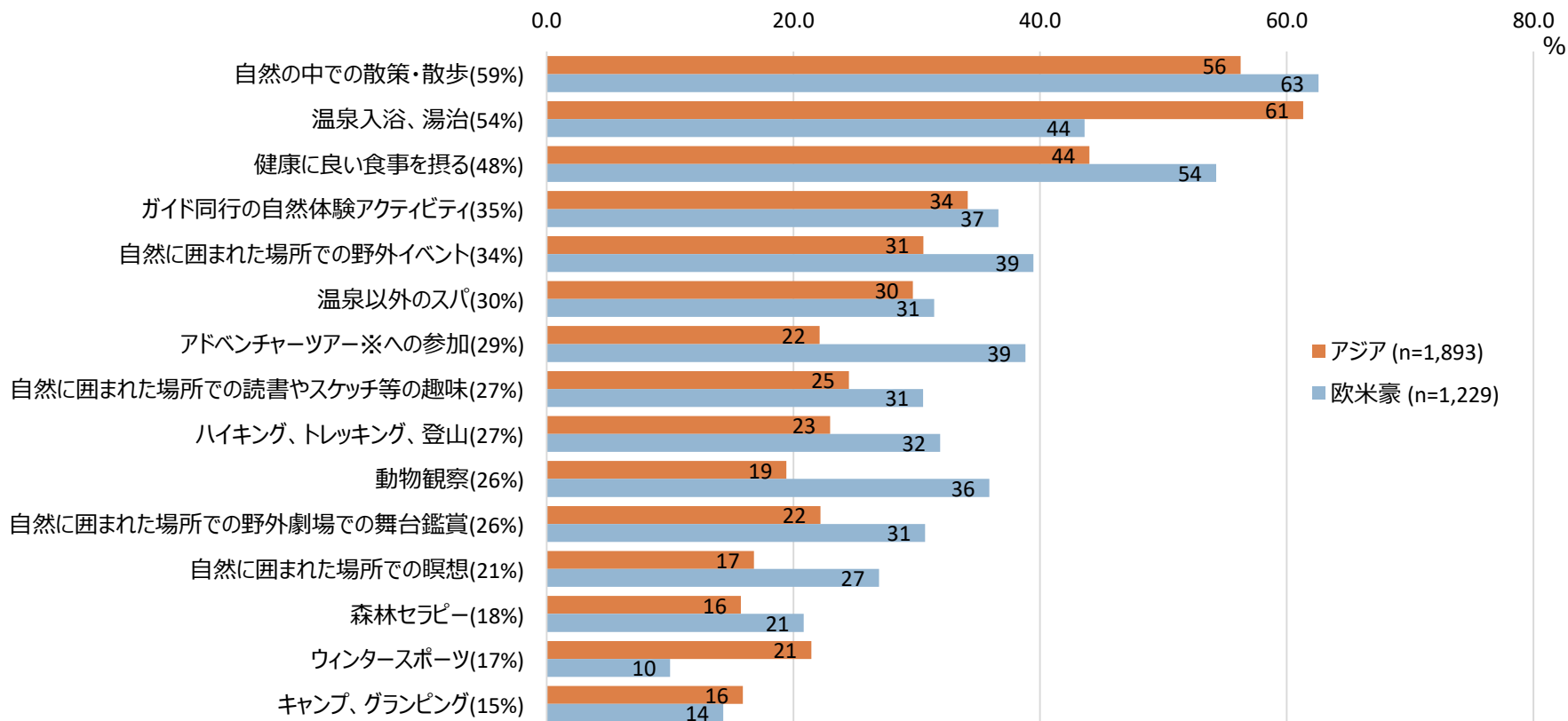
## 2-1. 訪日旅行時に実施したい活動

- アジア・欧米豪とも「自然の中での散策・散歩」や「ガイド同行の自然体験アクティビティ」の選択率が高い。
- 欧米豪は「アドベンチャーツアーへの参加」や「動物観察」の選択率がアジアに比べて高い。
- アジアは「温泉入浴、湯治」の選択率が最も高く、ウィンタースポーツの選択率が欧米豪に比べて高い。

### 訪日旅行希望者

#### 訪日旅行の際にやってみたい活動 (回答はあてはまるもの全て)

- 回答者全体の割合で降順ソート
- 上位15位まで
- 各項目における括弧内の値は全体 (アジア居住者 + 欧米豪居住者)



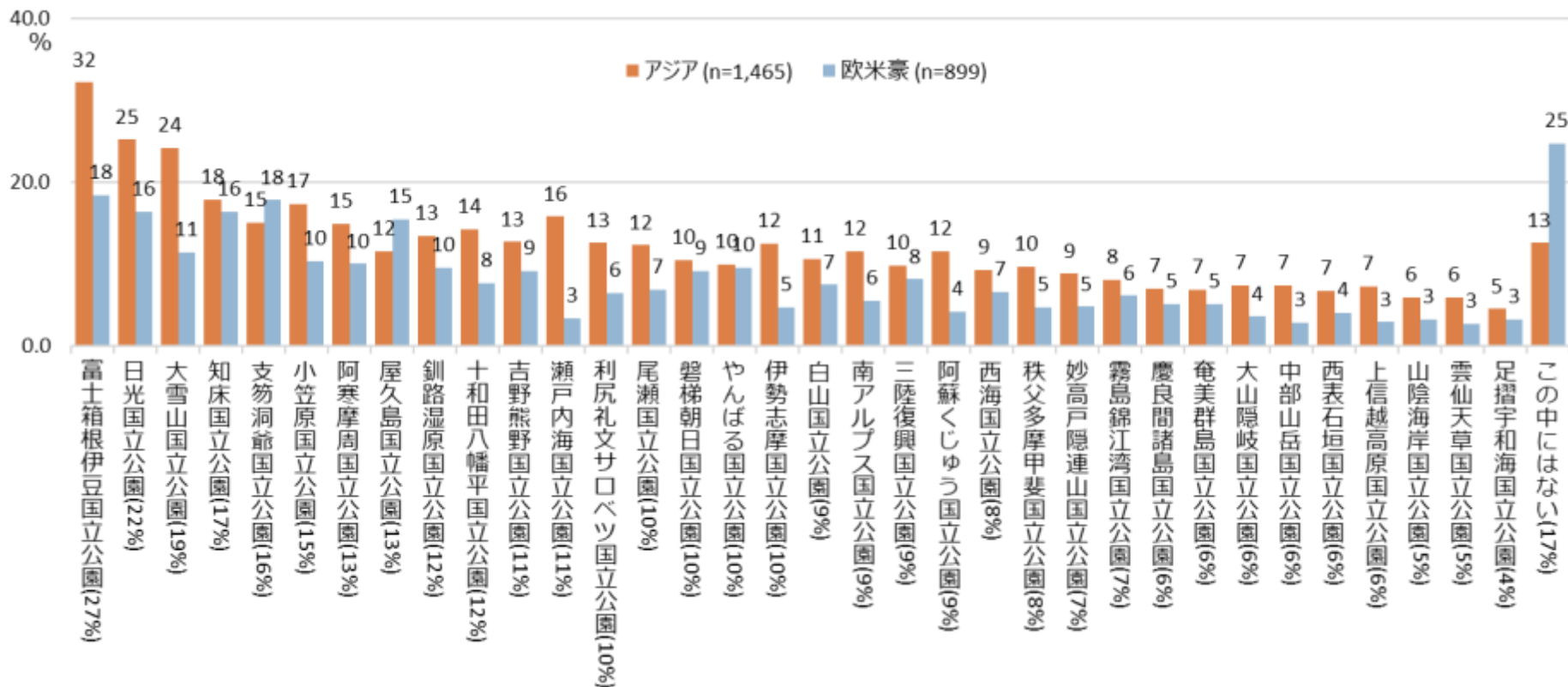
## 2-2. 日本の国立公園に対する認知度 [公園別]

- アジア、欧米豪ともに最も選択率が高いのは「富士箱根伊豆国立公園」。次いで「日光国立公園」。
- **知っている国立公園はないと回答した割合は全体で17%**。欧米豪はアジアに比べ、日本の国立公園に対する認知度が低い（「支笏洞爺国立公園」「屋久島国立公園」を除く）。

日本に国立公園があることを具体的に知っている人\*

知っている日本の国立公園  
(回答はあてはまるもの全て)

- 回答者全体の割合で降順ソート
- 各項目における括弧内の値は全体（アジア居住者+欧米豪居住者）



\*「日本の国立公園について具体的に知っている」または「行きたい日本の国立公園があり、情報収集や訪れる計画をしている」と回答した人

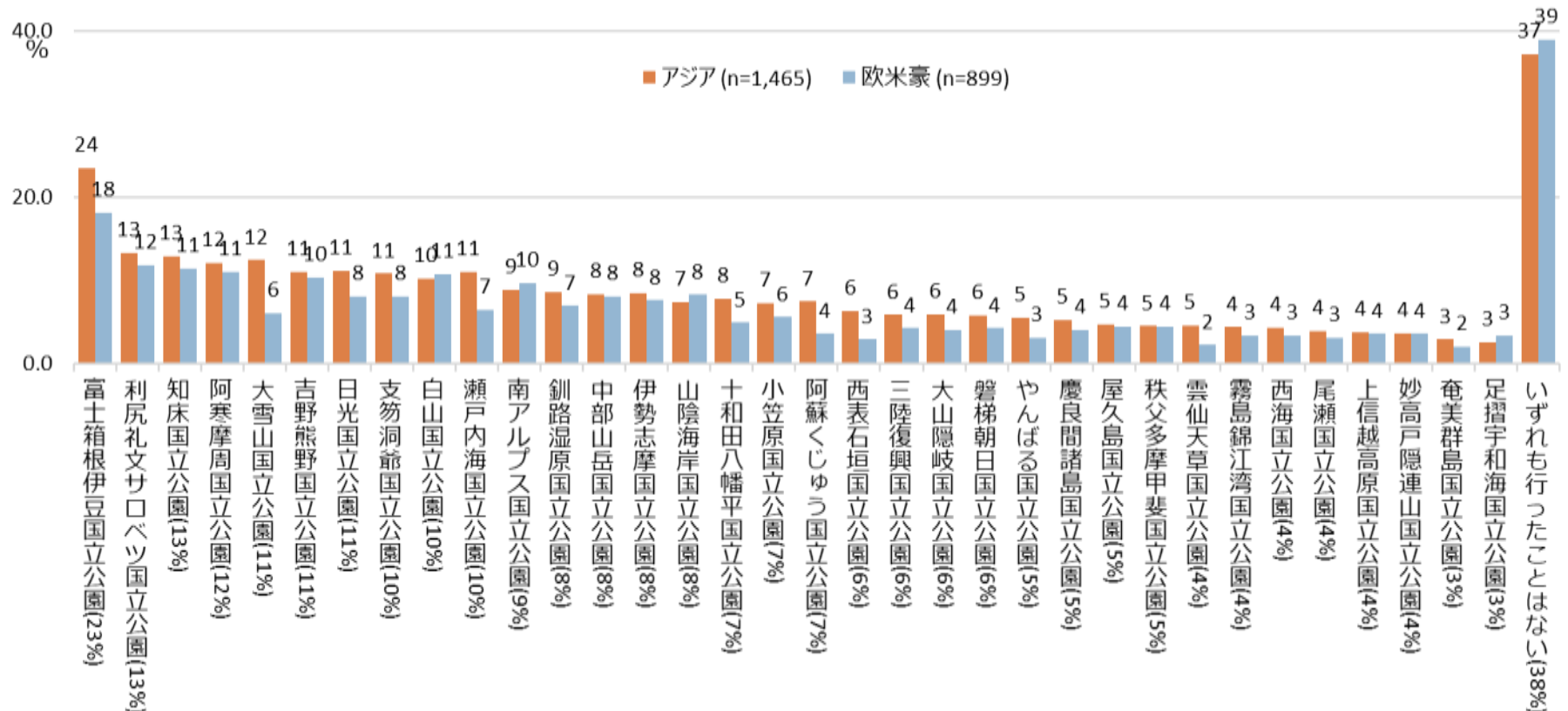
## 2-3. 日本の国立公園に対する訪問経験 [公園別]

- アジア、欧米豪ともに「行ったことがある国立公園はない」という回答が最も多く、最も訪問経験率の高い公園は「富士箱根伊豆国立公園」（アジア24%、欧米豪18%）。
- アジアでは、4公園を除くほぼ全ての国立公園について、訪問経験率が欧米豪に比べて高い。

### 訪日経験者

行ったことがある日本の国立公園  
(回答はあてはまるもの全て)

- 回答者全体の割合で降順ソート
- 各項目における括弧内の値は全体（アジア居住者+欧米豪居住者）



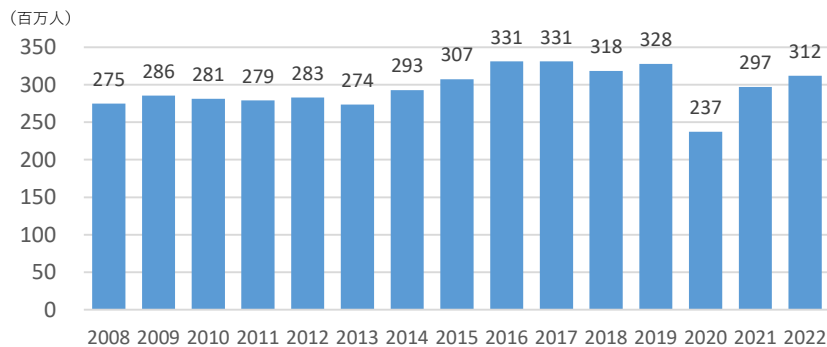
# 国立公園の利用に関する 特徴的な動向（国内外）

---

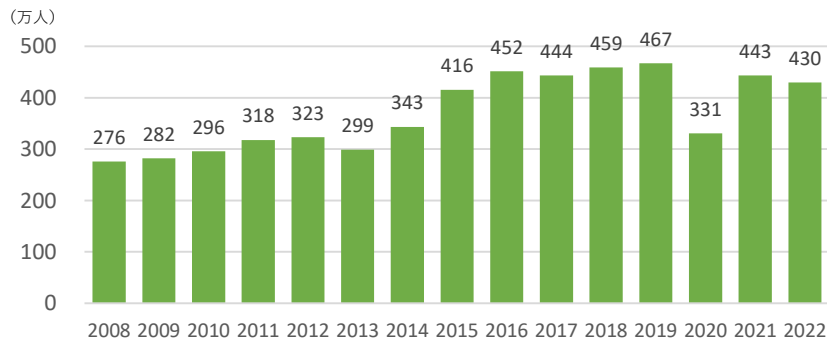
# 3-1. 海外における国立公園の動向

- **米国の国立公園では、コロナによる影響前の3億人台まで利用者数が回復している。**
- 各公園では2020年時点では密の回避や手洗いの徹底などが呼びかけられていたが、一方で一部の公園や一部エリアでは利用者の集中や混雑が見られるようになってきた。そうした事態を受けて複数の公園では事前予約制や時間入場制の措置が取られたが、ルールの定着には時間を要している模様である。

米国国立公園全体におけるレクリエーション利用者数の推移

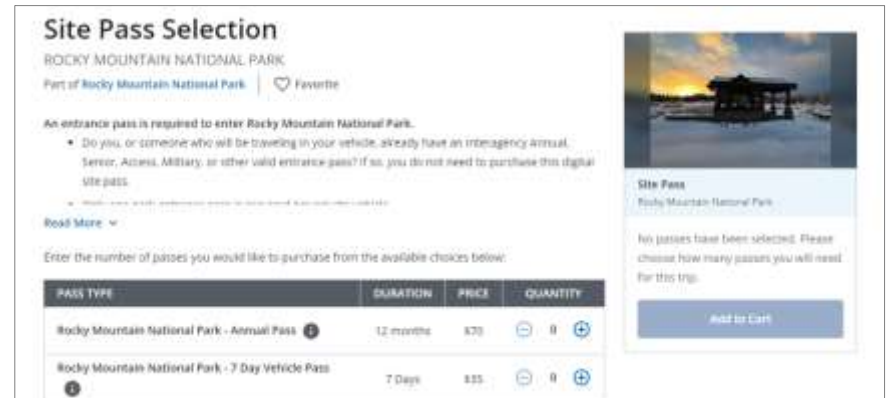


米国ロッキーマウンテン国立公園におけるレクリエーション利用者数の推移



**[Topic] 米国NPにおける予約システムの導入とその余波**

- コロナ禍からの回復と合わせて一部国立公園において利用者の集中や混雑が発生したことを受けて、複数の国立公園において事前予約制及び時間入場制の措置が取られた。
- しかし、訪問数日前など直前にしか予約を入れられないケースが多発し、数ヶ月前、1年前から予約をする海外客やツアー・団体客に対応できていないことで一部混乱が生じた。
- 現在は公園ごとに個別の修正対応が行われている最中である。

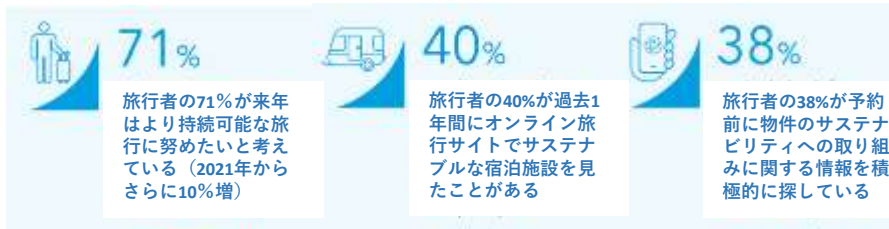


<https://www.recreation.gov/>

## 3-2. サステナブルツーリズムに関する動向

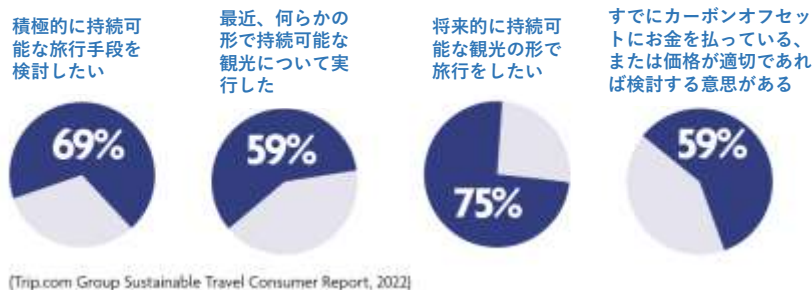
- サステナブルツーリズムに対する旅行市場の意識はますます高まっており、持続可能な旅行に努めたいと考える旅行者は全体の71%で前年2021年よりも10%増加している。
- 市場意識の変化と合わせて、世界各地の観光地でもサステナブル・ツーリズムの推進が図られており、特に、旅行者に訪問地への尊重・理解や倫理的な行動を求めるレスポンスブルツーリズムやエシカルツーリズム、リジェネラティブツーリズムなどへの取組が見られるようになっている。

### サステナブルツーリズムに対する意識 (Booking.com調査)



Source: Booking.com Sustainable Travel Report 2022.

### サステナブルツーリズムに対する意識 (Trip.com調査)



(Trip.com Group Sustainable Travel Consumer Report, 2022)

Source: World Travel and Tourism Council: A World in Motion January 2023.

### 【Topic】観光地におけるレスポンスブルツーリズムの発信

- ハワイをはじめ欧州など先行してサステナブルツーリズムに取り組む地域が拡大することで市場意識も変化している。なかでも旅行者に対して、訪問地に対する尊重・理解や倫理的な行動を求めるレスポンスブルツーリズムを推進する動きが顕著になっている。
- 加えて、脱炭素化・ミレニアル世代の台頭も含めて、社会全体の意識にも変化がみられる。



(ハワイ州観光局)

## 3-3. アドベンチャーツーリズムに関する動向

- アドベンチャーツーリズム／アドベンチャートラベルに対する取組が国内外で見られ、特に国内においては ATTA（Adventure Travel Trade Association）の動きに合わせた各種取組が盛んになっている。
- 北海道では2023年9月にアドベンチャートラベルワールドサミットが開催される予定で、公式観光サイトのリニューアルを始めとして各種準備が進められている。

### 【Topic】北海道公式観光サイトのリニューアル

- 北海道観光振興機構では、公式サイト『HOKKAIDO LOVE!』に掲載中のアドベンチャートラベルの日本語ページを全面改修、2/3にリニューアルオープン。
- サイトは、一般観光客向けページと旅行会社・メディア向けページに分かれており、後者では海外旅行事業社との商談に使うサンプルコースやATに取り組む主なツアーオペレーターなども紹介している。



(北海道観光振興機構)

### 【Topic】アドベンチャートラベルワールドサミットの開催

- 2022年10月、アドベンチャートラベルの国際サミット「アドベンチャートラベル・ワールド・サミット（ATWS）」が、スイスで開催された。
- 世界64か国から約800名の旅行会社、観光関連事業者、メディアなどの関係者が集まり、日本からも約70名の参加があった。
- サミット内の講演「Our World in Transition」では、観光にも「Less is better」の考えに変革が必要だと示されたほか、参加者同士によるディスカッションでは「コンテンツマーケティング」「アウトドアギアと観光」「旅行の決済プロセスと顧客満足度」「旅行会社のカーボンラベル取得」「自然保護に必要な資金活用」といったテーマをもとに様々な意見交換が行われた。
- 次回23年は、9月に北海道・札幌での開催が予定されている。



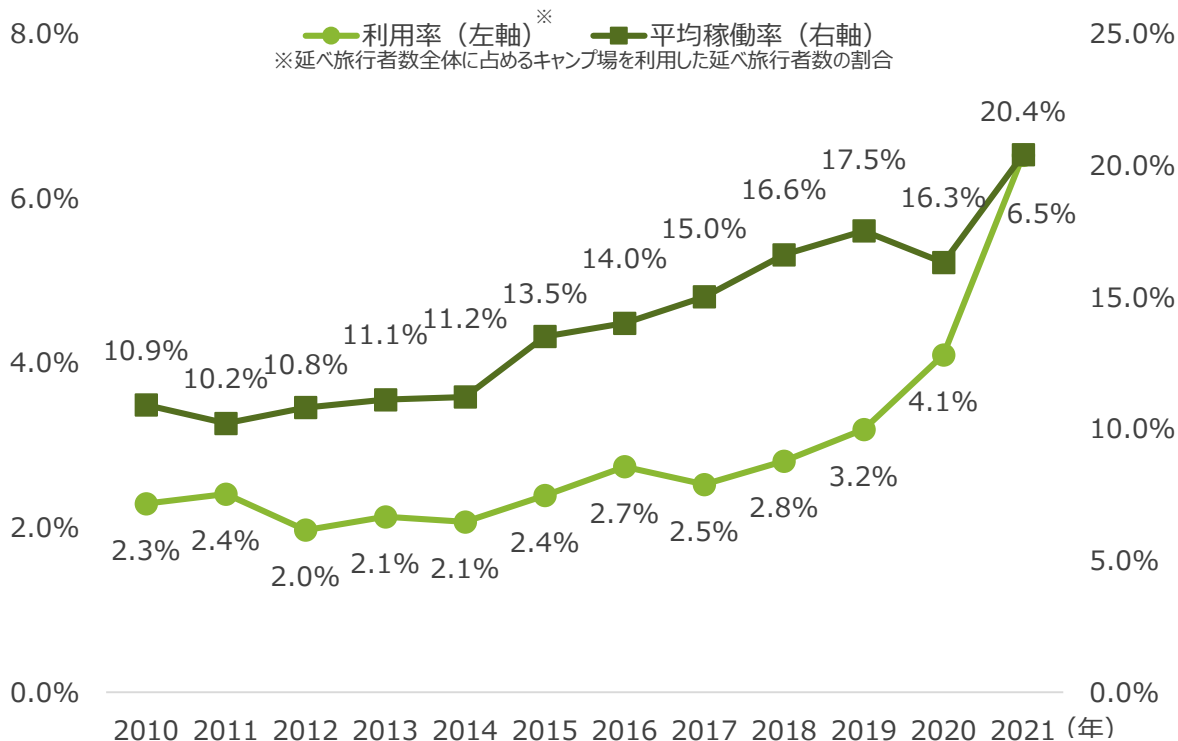
(INTO)



## 3-4. キャンプに係る動向

- キャンプ場利用率は2012年から上昇。オートキャンプ参加人口は、コロナ禍前の2019年まで7年連続の増加。これに伴いキャンプ場の稼働率も上昇。
- 国立公園においてもキャンプ需要の高まりに合わせ、民間企業との連携等による取り組みを推進。

キャンプ場利用率およびキャンプ場稼働率



### 【Topic】国立公園におけるキャンプ場の取組

- 霧島錦江湾国立公園 御池キャンプ村で Wi-Fiなどワーケーション設備を整備 (R4.3月)、企業研修も誘致



写真提供：高原町

- 阿寒摩周国立公園、環境省、北海道、弟子屈町が設置した国立公園内及び周辺のキャンプ場3箇所の民間企業による一体的な管理運営

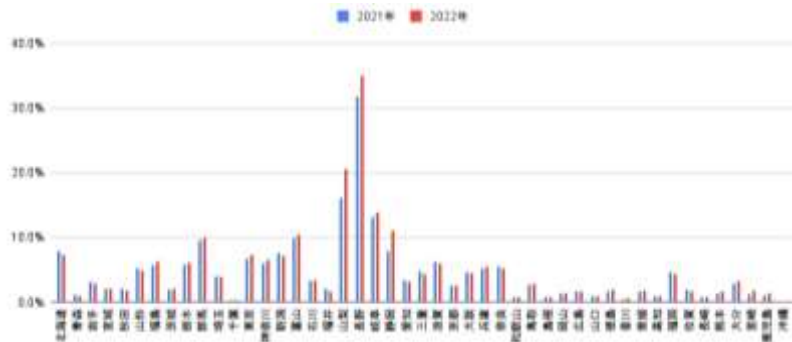


(RE CAMP 砂湯)

## 3-5. 登山・トレッキングに係る動向

- 他のアクティビティ同様、**登山・トレッキングも新型コロナウイルス感染症の影響から回復傾向**にあり、富士山では2019年水準にはまだ戻らないものの、2021年から登山者数は倍増している。
- 利用ニーズの高まりに合わせて、国内外で登山道・トレイル等のハードや情報サイト等のソフト面での整備が進んでおり、オーストラリアでは周辺地域の観光コンテンツも含めた総合サイトが新たに開設されている。

夏期 都道府県別登山者の割合



夏期 富士登山者数の推移



(YAMAP)

(環境省)

【Topic】西オーストラリア州におけるトレイル情報サイト

- 新たに整備されたサイトでは、オフラインでアクセス可能な地図を備え、800以上のブッシュウォーキング、マウンテンバイク、ランニング、ウォーター、フード&ワイン、バリアフリーのトレイルに関する情報を提供している。
- また、国立公園のトレイルだけでなく、周辺のカフェ、宿泊施設、自転車店、交通機関など、周辺地域も含めた精選されたコンテンツで、計画や探索に役立つように設計されている。



<https://trailswa.com.au/>